

■招詞 イザヤ書 12：5 -6a 「主にほめ歌をうたえ。主は威厳を示された。全世界にその御業を示せ。シオンに住む者よ/叫び声をあげ、喜び歌え。」

■礼拝の祈り

天にいらっしゃいます、私達の父なる神様

<礼拝の招きへの感謝>

この新しい主の日の朝、喜んで礼拝に来たもの、当たり前のように来た者、体に不都合がありながら来た者、家族を気にしながら来た者と様々ですが、こうして教会に集まる事が出来ました。何よりも、あなたはこの礼拝を備えて下さり、恵みとしてわたしたちをこの礼拝に招いて下さいました。感謝します。どうか、あなたの招きの声をしっかり聞き、それにお応えする礼拝をささげることが出来ますように、このとき・この場所を聖霊で満たして下さい。

今日もここで共に礼拝が出来ると喜び合う友がいます。でも、この朝顔をみる事が出来ない友もいます。一緒にこの礼拝に集うことが出来なくても、すべての者が主によって一つであり、あなたの恵にしっかり捉えられていることを確信し、感謝いたします。

<神の御前での罪の告白と悔い改め>

こうして今御前に立たされている時、改めて自分の罪の深さを思います。先の主の日に御言葉を聞き、新しい者へとつくりかえられたにもかかわらず、古い自分のまま過ごしました。この一週間、どれだけ御言葉を思い、敬い、それに従う祈りの生活をしていたのでしょうか？

あなたはこよなく私たちを愛してくださいました。でも私達はどれほどの思いであなたを愛しているのでしょうか？「自分を愛するように、隣人を愛しなさい」の御言葉を何度も聞きながらも、まず自分の事から考えました。人の事は二の次、困っている人に優しい言葉もかけず過ぎ去りました。

でも、あなたは私達のすべての罪をご存知の上ここに立たせてくださいます。今、ここで、真実の讃美と祈りを捧げることが出来ますように私達の罪を許してください。

<御言葉が語られ、聞かれるため、聖霊の働きを求めて>

今日は、休暇中の長倉牧師の代わりに、青山学院宗教主任の北川理恵先生をつかわせて下さり、御言葉を与えて下さいます。

どうか、御言葉を語られます先生の上に、聖霊の豊かな導きと働きをそそいでください。あなたが招いて下さいました私達が、開かれた耳と素直な心で御言葉を聞き受け入れることが出来ますように聖霊をお与えください。

北川先生が取り次がれます生きた御言葉により、心も身体も聖霊にみたまされ、新しく生まれ変わることが出来ますようにお願いします。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。アーメン。

■教会の祈り

<礼拝感謝>

天にいらっしゃいます私達の父なる神様

<8月は平和を祈るとき>

8月は平和について深く考える時です。特に終戦80年の今年、昔のおおきな悲しみと罪の深さを知らされます。又、今世界のあちこちで、まさに戦争が行われ、多くの方が被害に遭い飢えと苦しみの中にいます。「平和を作り出すものは幸いである」の御言葉で、平和を作り出す幸いへと導いて下さい。まことの平和を作り出すご用に、私たちをお用い下さい。

<困難の中にある人を助け、癒し、救ってください>

心や体に病・悩みを持っている者を助けてください。老いと共に歩むものを助けてください。私達のすべての歩みがあなたのご計画の中にあることを信じ、あなたが救いの御手を差し伸べて下さることを信頼して歩むことができますようお願いします。

九州や日本海側の大雨で被害に遭い困難な状況にいる人がいます。大切な人を失い悲しみの中にいる人、日常生活に困っている人がいます。先が見えない中、どうか助けと希望を与えて下さい。

<奏楽者研修を感謝します>

先日行われました奏楽者研修を感謝します。賛美と祈りの支えにより礼拝がますます豊かになります。それに奉仕される奏楽者一人一人を助け支えてください。

<全国連合長老会中高生修養会を感謝します>

また、全国連合長老会中高生修養会がおこなわれ、CSの高校生が参加しました。この修養会で中高生に神様をより深く知る恵の時を与えて下さり感謝します。

<新しい1週間も祈りの中に歩めることを感謝して>

御言葉に送り出され新しい1週間を始めます。あなたがいつもそばにいて私達の祈りを聞いてくださいます。そのことを信じ確信をもって祈ります。主に守られて祈りの生活が送れますことを感謝します。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。